

C 2
212
026

杉本勝二郎編纂

英獨
參照

帝國憲法

附關係法律書

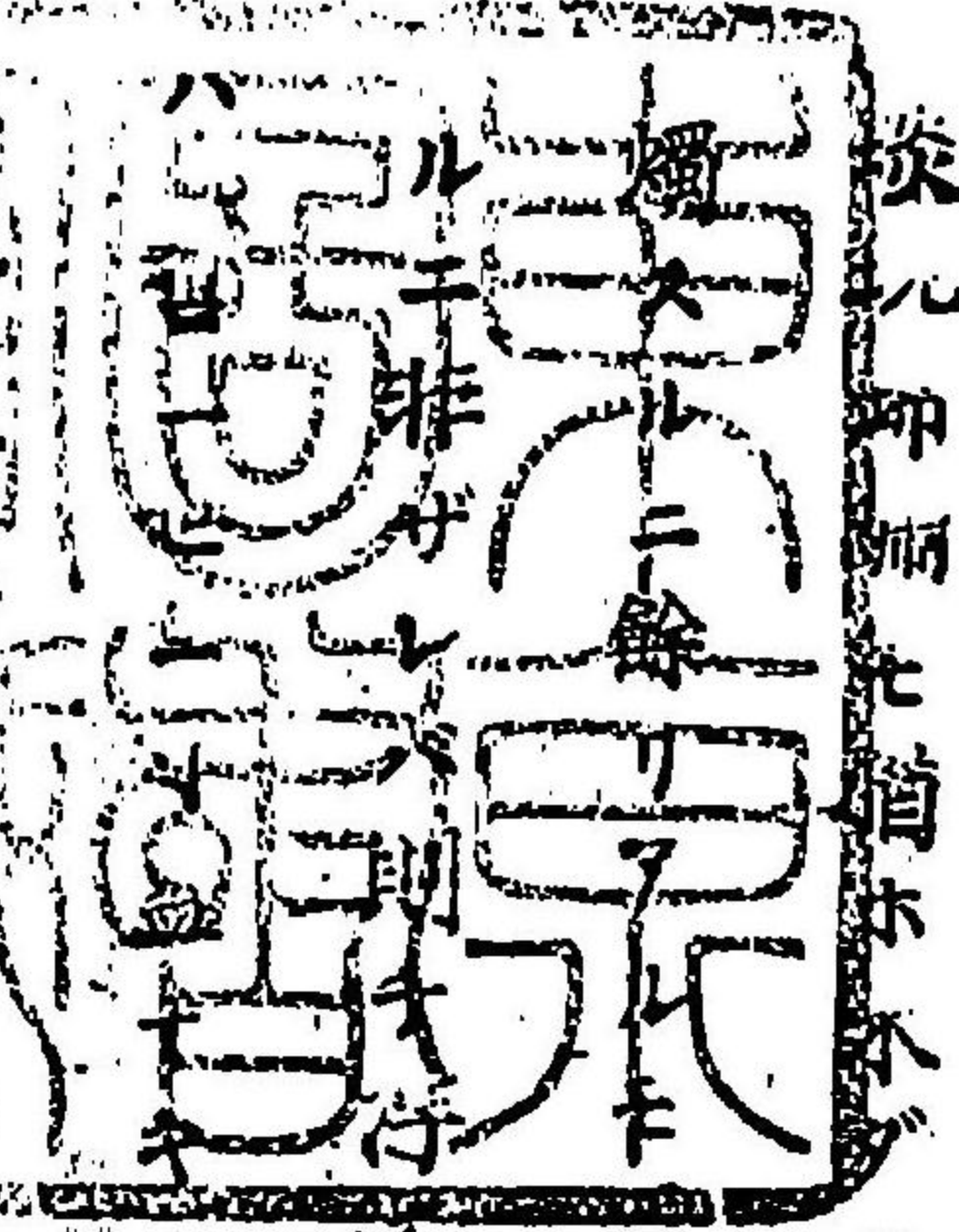
書肆 東壁堂藏

C2
212.
026

特
478

No 15388

英獨
對照帝國憲法序



之ヲ形容シ蓋サ、ル夫ノ文章。光怪陸離。人ノ眉目ヲ
 徒ラニ放言論。歐世ノ語ヲ爲シ。以テ聲名ヲ博ス
 又虚辭。人ノ情慾ヲ蕩シ。人ノ心術ヲ壞ルカ如キ者
 ノヒナフズ。刑一ムア進フセシ俗ヲ亂サントス。豈
 ニ之ヲ讀ムヤ
 昨形本洋一、小冊子ヲ撰一シ。未テ余一示シテ曰ク。是レ首ト
 領セラレタル大日本帝國憲法ヲ收載シ。之ニ副フルニ英吉利獨逸兩國憲



章ノ吾レニ授合セル者。以テ。讀者ノ參照ニ便ナラシムル者。將一之ヲ
 副屬子ニ附シ。以テ諸レヲ世ニ公ニセントス。光緒二十二年之ヲ序セテ。余方ニ

應務纏綿。未ダ細讀ニ暇アラズト雖也。已ニ頭銜署入ルニ憲法云々ノ字ヲ以テス。乃チ夫ノ徒ラニ虚ニ驚セ尚キヲ務メ。蛇神牛鬼。亂世ノ資ヲナス者ノ比ニ非ザルヲ知ルナリ。

火酒一小盞ヲ盡ストキハ。渾身ノ融々然ヲ覺ユルハ。平素人々ノ實感スル所。此書亦タ一小冊子ニ過ギズト雖也。讀者若シ反覆其ノ真味ヲ賞スルトキハ。渾身ヲシテ融々然ヲシムルコト。或ハ彼ノ火酒ノ一小盞ニ抵テ得ルコトモ之レ有ラン。遂ニ書シ以テ巻端ニ辨ス。

明治廿二年二月中辭

杉南居士 津田英彦 識

凡例

一本卷ハ明治二十二年二月十一日ヲ以テ宣頒セラレタル大日本帝國憲法

ニ附スルニ「英」獨「兩國ノ憲法ヲ以テシ讀者ノ參照ニ便ナラシム

一本卷中地名國名ハ括弧「」ヲ以テ之ヲ挿ミ人名ニハ右傍ニ單線——ヲ加

ヘテ之ヲ判テリ然レモ地名國名ニシテ世既ニ一定ノ譯字アルモノニ至

テハ敢テ符號ヲ附セズ

一凡ソ大日本帝國憲法ノ止條ノ英獨憲法中ニ求ムルニ適合ヲ得ル者極メ

テ空ナルヲ以テ兩國憲法中ニ就キ苟モ主旨ノ相似タル者ハ網羅シテ之ヲ附記セリ

一本卷中特ニ英獨兩國憲法史要ヲ收載シタル者ハ英獨憲法ノ起因ヲ明瞭

ニシテ讀者ノ便ヲ謀ランカ爲メナリ

一大日本帝國憲法ノ由來ヲ爰ニ省略セル所以ハ讀者ノ夙ニ之ヲ詳了スルヲ知ルヲ以テナリ

一本卷ハ極メテ匆卒ノ際ニ脱稿セル者ナレバ辭句ノ間商酌ヲ待ツ者尠ナカラズトナス讀者幸ニ之ヲ諒セヨ

明治二十二年二月中辭

編者識

告文

皇朕レ謹ミ畏ミ

皇祖

皇宗ノ神靈ニ詰ケ白サク皇朕レ天懷無窮ノ宥謨ニ循ヒ惟神ノ寶祚ヲ承繼シ舊圖ヲ保持シテ敢テ失墜スルニトナシ願ミルニ世局ノ進運ニ膺リ人文ノ發達ニ隨ヒ宜ク

皇祖

皇宗ノ遺訓ヲ明徴ニシ典憲ヲ成立シ條章ヲ照示シ内ハ以テ子孫ノ率由スル所ヲ爲シ外ハ以テ臣民翼賛ノ道ヲ廣メ永遠ニ遵行セシメ益々國家ノ基ヲ鞏固ニシ八州民生ノ慶福ヲ増進スヘシ茲ニ皇室典範及憲法ヲ制定ス惟フニ此レ皆

皇祖

皇宗ノ後裔ニ胎シタマヘル統治ノ洪範ヲ紹述スルニ外ナラズ而シテ朕カ躬ニ逮テ時ト俱ニ舉行スルヨリ得ルハ洵ニ

皇祖

皇宗及我カ

皇考及威靈ニ倚籍スルニ由ラサルハ無シ皇朕レ仰テ

皇祖

皇宗及

皇考ノ神祐ヲ禱リ併セテ朕カ現在及將來ニ臣民ニ率先シ此ノ憲章ヲ履行シテ愆ヲサラムコトヲ誓フ鹿幾クハ

神靈此

憲法發布勅語

朕國家ノ隆昌ト臣民ノ慶福トヲ以テ中心ノ欣榮トシ朕カ祖宗ニ承クルノ不懼ニ依リ現在及將來ノ臣民ニ對シ此ノ不磨ノ大典ヲ宣布ス
惟フニ我カ祖我カ宗ハ我カ臣民祖先ノ協力輔翼ニ倚リ我カ帝國ヲ肇造シ以テ無窮ニ垂レタリ此レ我カ神聖ナル祖宗ノ威徳ト茲ニ臣民ノ忠實勇武ニシテ國ヲ愛シ公ニ殉ヒ以テ此ノ光輝アル國史ノ成跡ヲ貽シタルナリ朕我カ臣民ハ即チ祖宗ノ忠良ナル臣民ノ子孫ナルヲ回想シ其ノ朕カ意ヲ奉體シ朕カ事ヲ獎順シ相與ニ和衷協同シ益々我カ帝國ノ光榮ヲ中外ニ宣揚シ祖宗ノ遺業ヲ永久ニ鞏固ナラシムルノ希望ヲ同クシ此ノ負擔ヲ分ツニ堪フルコトヲ疑ハザルナリ

英帝大憲章批准ノ勅語

皇天ノ惠愛ヲ受ケタル英吉利皇帝兼「アイルランド王」「ノルマン」及ビ「アックイタイン」
公アンジュー伯ジョン親ヲ汝等大僧正、僧正、僧都、侯伯、審判官、山林官、知事其他ノ諸有
司ト忠愛ナル臣民トニ詔ス汝等欽ンデ之ヲ聽ケ朕方ニ親ラ皇天ニ誓ヒ朕及ビ朕ガ祖宗ノ
靈魂ト朕ガ子孫トヲ慰藉センガ爲メ且ツ皇天ト聖會ヲ尊崇セシガ爲メ更ニ朕ガ帝國ヲ靜
謐ナラシメンガ爲メ朕ガ國老ト讜シ皇天ニ誓ヒ以テ爰ニ大憲章ヲ批准スル者ナリ

朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ萬世一系ノ帝位ヲ踐ミ朕カ親愛スル所ノ臣民ハ
即チ朕カ祖宗ノ惠撫慈養シタマヒシ所ノ臣民ナルヲ念ヒ其ノ康福ヲ
増進シ其ノ懿德良能ヲ發達セシムコトヲ願ヒ又其ノ翼賛ニ依リ與
ニ俱ニ國家ノ進運ヲ扶持セムコトヲ望ミ乃チ明治十四年十月十四日
ノ詔命ヲ履踐シ茲ニ大憲ヲ制定シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕カ後嗣及
臣民及臣民ノ子孫タル者ヲシテ永遠ニ循行スル所ヲ知ラシム
國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリ朕
及朕カ子孫ハ將來此ノ憲法ノ條章ニ循ヒ之ヲ行フコトヲ愆ラサルヘ
シ
朕ハ我カ臣民ノ權利及財産ノ安全ヲ貴重シ及之ヲ保護シ此ノ憲法及
法律ノ範圍内ニ於テ其ノ享有ヲ完全ナラシムヘキコトヲ宜言ヌ

帝國議會ハ明治二十二年ヲ以テ之ヲ召集シ議會開會ノ時ヲ以テ此ノ
憲法ヲシテ有効ナラシムルノ期トスヘシ
將來若此ノ憲法ノ或ル條章ヲ改定スルノ必要ナル時宜ヲ見ルニ至ラ
ハ朕及朕カ繼續ノ子孫ハ發議ノ權ヲ執リ之ヲ議會ニ付シ議會ハ此ノ
憲法ニ定タル要件ニ依リ之ヲ議決スルノ外朕カ子孫及臣民ハ敢テ之
カ紛更ヲ試ミルコトヲ得サルヘシ
朕カ在廷ノ大臣ハ朕カ爲ニ此ノ憲法ヲ施行スルノ責ニ任スヘク朕カ
現在及將來ノ臣民ハ此ノ憲法ニ對シ永遠ニ從順ノ義務ヲ負フヘシ

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

內閣總理大臣 伯爵黑田清隆

樞密院議長

伯爵伊藤博文

外務大臣

伯爵大隈重信

海軍大臣

伯爵西郷從道

農商務大臣

伯爵井上馨

司法大臣

伯爵山田顯義

大藏大臣兼兩務大臣

伯爵松方正義

陸軍大臣

伯爵大山巖

文部大臣

子爵森有禮

遞信大臣

子爵榎本武揚

目次

大日本帝國憲法

| | | |
|-----|-----------|----|
| 第一章 | 天皇 | 一 |
| 第二章 | 臣民ノ權利義務 | 五 |
| 第三章 | 帝國議會 | 八 |
| 第四章 | 國務大臣及樞密顧問 | 十四 |
| 第五章 | 司法 | 十五 |
| 第六章 | 會計 | 十七 |
| 第七章 | 補則 | 二十 |

瀋逸憲法史要

| | |
|----|----|
| 目一 | 〇一 |
|----|----|

英吉利憲法史要

〇三丁

法律第二号 議院法

二十四丁

第一章 帝國議會ノ召集成立及開會

二十四丁

第二章 議長書記官及經費

二十五丁

第三章 議長副議長及議員歳費

二十八丁

第四章 委員

二十八丁

第五章 會議

三十丁

第六章 停會閉會

三十二丁

第七章 秘密會議

三十三丁

第八章 豫算案ノ議定

三十四丁

第九章 國務大臣及政府委員

三十四丁

第十章 質問

三十六丁

第十一章 上奏及建議

三十七丁

第十二章 兩議院關係

三十七丁

第十三章 請願

四十丁

第十四章 議院ト人民及官廳地方議會トノ關係

四十二丁

第十五章 退職及議員資格ノ異議

四十三丁

第十六章 請暇辭職及補闕

四十四丁

第十七章 紀律及警察

四十五丁

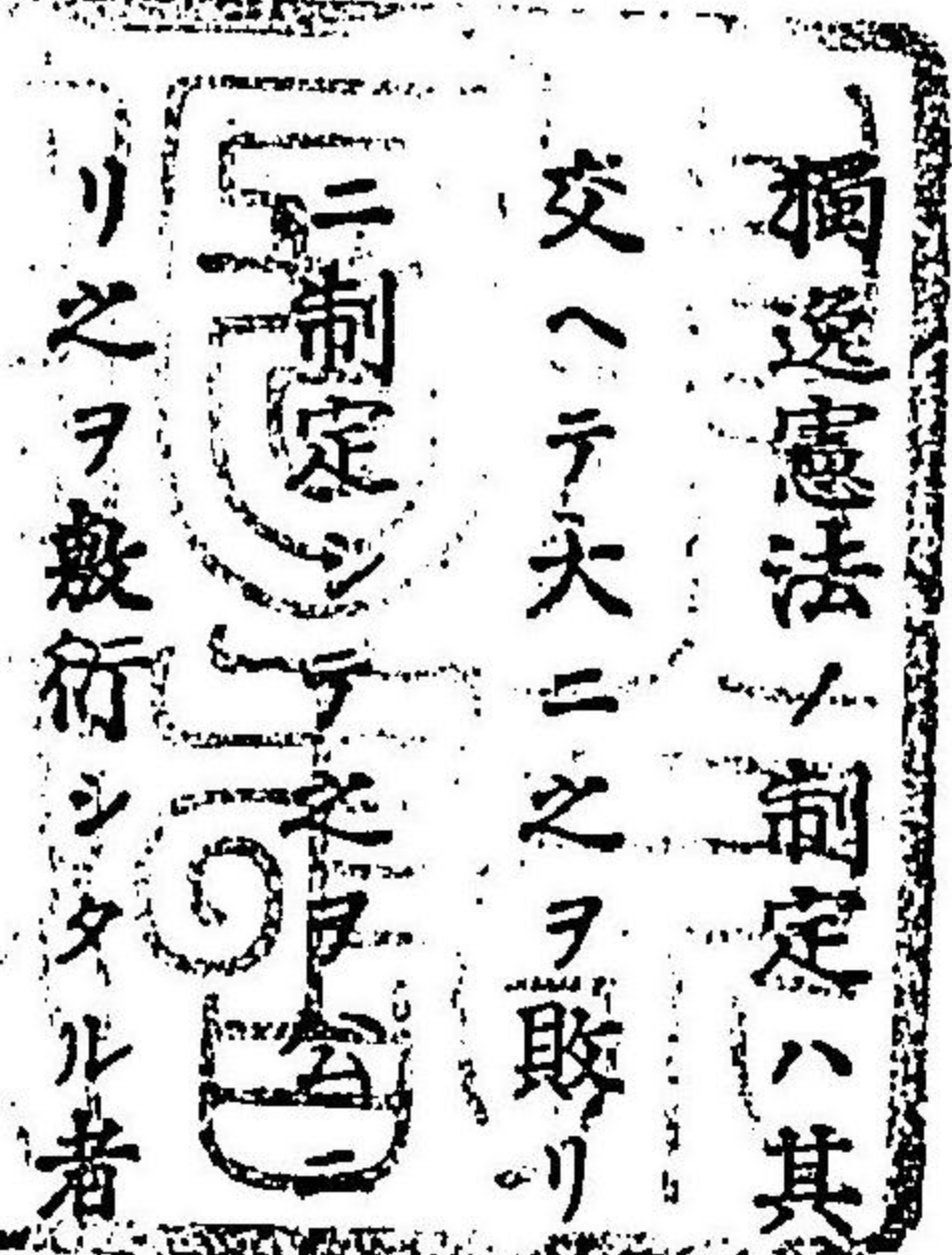
第十八章 懲罰

四十八丁

| | |
|-------------------|------|
| 法律第三号 衆議院議員選舉法 | 五十二丁 |
| 第一章 選舉區畫 | 五十二丁 |
| 第二章 選舉人ノ資格 | 五十三丁 |
| 第三章 選舉人ノ資格 | 五十四丁 |
| 第四章 選舉人及被選人ニ通スル規定 | 五十六丁 |
| 第五章 選舉人名簿 | 五十七丁 |
| 第六章 選舉ノ期日及投票所 | 六十二丁 |
| 第七章 投票 | 六十四丁 |
| 第八章 選舉會 | 六十七丁 |
| 第九章 當選人 | 七十一丁 |

| | |
|----------------|------|
| 第十章 議員ノ任期及補闕選舉 | 七十三丁 |
| 第十一章 投票所取締 | 七十四丁 |
| 第十二章 當選訴訟 | 七十六丁 |
| 第十三章 罰則 | 七十九丁 |
| 第十四章 補則 | 八十四丁 |
| 衆議院議員選舉法附錄 | 八十七丁 |
| 勅令第十一號 貴族院令 | 九十二丁 |

獨逸憲法史要



獨逸憲法ノ制定ハ其ノ日猶ホ淺ク即チ千八百七十年普魯西佛蘭西ト兵ヲ
交ヘテ大ニ之ヲ敗リ遂ニ日耳曼聯邦ノ盟主トナリ因テ翌千八百七十一年
ニ制定シテ之ヲ行ハセル者ニシテ其ノ憲法過半ハ精神ヲ普魯西憲法ニ取
リ之ヲ敷衍シタル者ニ過キズ蓋シ獨逸聯邦ハ大小二十六ノ邦國ヨリ成立
シ從來ハ奧太利之ガ盟主ナリシガ「サトワ」ノ大戰ニ奧軍敗ヲ取リシヨリ
普魯西之ニ代テ聯邦ノ盟主トナリ尋テ前記千八百七十年佛ト戰フテ之ヲ
敗リタルニ及ンデ普魯西ハ獨逸ノ帝座ヲ占領セリ而シテ其ノ聯邦中猶ホ
獨立ヲ保持スルノ邦國ハ二十五個ニシテ聯邦議會議員ノ數ハ總計六十二
人又タ國會議員ノ數ハ總計三百九十七人ナリ

蓋シ右ノ諸邦國ハ各自特別ノ法律、制度、憲法ヲ有シ唯ダ聯邦全躰ニ關係スル重大ノ件ニ限り各邦國一定ノ規準ヲ奉ズル者トス而シテ諸制度ノ中ニ就キ殊ニ憲法ヲ以テ各邦國ノ君主一齋ニ之ヲ重シトナシ永遠ニ之ヲ維持セント欲スル者ハ其ノ獨立及ビ主權ノ形跡ヲ失ハンコトヲ恐ル、ガ爲メナリ然レドモ「ハビイル」ヲ除クノ外ハ各邦國ノ兵隊電信郵便等ハ一切普魯西王國ノ所轄ニ屬シ而シテ普魯西ハ右ノ權カヲ有スルニ代フルニ各邦國ヲシテ自國ノ習慣等ヲ酌量シテ適宜ニ憲法ヲ制シ政令ヲ布キ議院ヲ設クル等ノ權利ヲ有セシム

各邦國ノ憲法中普魯西現行ノ憲法ハフリードリッヒウヰルヘルム四世政府ノ制定ニ係リ千八百四十九年ニ開會セシ國會ノ賛全ヲ經翌年ヲ以テ之

ヲ公ニシ「ハビイル」ノ憲法ハ千八百十八年ニ制定シ其ノ後幾多ノ更正ヲ經タル者又「ウイルデンプルク」ノ憲法ハ則チ千八百十九年ニ制定セラレタル者ナリ

英吉利憲法史要

今日ノ全世界中ニ就キ立憲代議政體ノ最モ完美ヲ極ムル者ハ首トシテ「英吉利」ヲ推サ、ルヲ得ザルノ理ハ夙ニ世人ノ了知スル所ナルカ是レ決シテ一朝ニシテ爰ニ至レルニハ非ズシテ遠ク其ノ原ヲ上古「サクザン」時代ニ胚胎シ降テ彼ノ有名ナルジョン王ノ大憲章マグナカルタイドワード一世ノ權利証明チヤールス一世ノ權利請願ウイリヤム三世ノ權利法典ヲ加ヘ更ニ其間ニ前後發セル所ノ布告布令等ニシテ人民ノ權利ヲ保証セル者ヲ補ヒ始

メテ其ノ完美ヲ致セル者ナリト雖ドモ詮シ采レバ是レ英吉利古采ノ慣習ヲ纂集セル者タルニ過ギス

顧フニ彼ノサクヅン時代ニハ已ニ賢哲會議ナル者アリテ其ノ權力極メテ大ニ或ハ國王ノ失政ヲ咎メテ之ガ廢黜ヲ行ヒ或ハ國王ノ選舉ニ與リ或ハ政治ノ樞機ニ參シ恰モ現今ノ國會ト其ノ規ヲ一ニセリ然ルニ千六十六年「ノルマン」侯ウイリヤム一世采テ全國ヲ征服シ其ノ土地ヲ以テ部下將士ノ勲勞アル者ニ封シ爰ニ封建ノ制度ヲ定メシヨリ民權大ニ萎縮シ其ノ後八朝ノ君王ヲ經テジョン王ニ至リ虐政日ニ甚シク且ツ舊采部下ノ諸侯伯僧侶等ヨリ徵收セル封建稅謂ユル冥加金ナル者漸ク重キヲ加ヘタルヨリ貴族人民合全シテ王ニ迫リ畢ニ今日ニ至ルマテ英吉利人民ガ仰テ以テ

金科王條トナス所ノ大憲章ニ鈐璽セシメタルハ實ニ千二百十五年ニテアリキ

其後イトワード一世ハ資性暴虐毫モ彼ノ大憲章ヲ遵守セザリシカバ千二百九十七年ニ至リ貴族人民相議シテ王ニ迫リ大憲章維持ノ盟約ヲナサシメタル者是レヲ權利証明トス然レドモ其後王復々憲法ヲ破リタルコト一ニシテ足ラザリシヨリ貴族人民再ビ迫テ憲章ヲ發セシメタルト前後三十餘回ニ至リシト云フ

然リ而シテ凡ソ國家全体ニ關スル法律ハ國會ニ於テ貴族僧侶平民一級ノ贊全ヲ要ストノ憲法ヲ設ケタルハ一千三百二十二年イワード二世ノ朝ニ在テ毎年國會ヲ召集スルノ布告ヲ發シタルハイワード三世ノ朝ニテ

アリキ是ヨリ先キヘンリー三世ノ朝王ト人民ト戦ヲ開キ王ノ軍敗レテ降ヲ乞ヒシヲ機トシ人民黨ノ主領「レースター」候サイモンデモンストホルドガ各州ヨリ四人ノ士族ヲ召集シテ全國一級ヲ代表セシメタルハ千二百六十五年ノ事ニシテ是レヲ英吉利中興代議政治ノ地盤トス

降テチャールス一世ハ其ノ父ゼームス一世ノ遺志ヲ繼紹シ苛税ヲ課シ獻金ヲ勸メ公債ヲ強募シ良民ヲ禁錮シ剩サヘ國會ヲ解散スルコト數回ニ及ビタレバ人民爰ニ權利請願ノ事ヲ一決シ強テ之ヲ上表ナシタレバ王モ己ムヲ得ズシテ汝等ガ希望スル所ヲ以テ法律トセヨトノ允可ヲ與ヘタリ

尋テウィルヤム三世ノ朝ニ及テ更ニ權利法典ヲ裁定シ爾後言論出版集會宗教等ノ自由着々其ノ歩ヲ進メ以テ立憲代議政体ノ好模範ヲ全世界ニ垂

ルノニ至リシナリ

大日本帝國憲法

第一章 天皇

第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス

(英) 權理證明 第一條 皇天ノ恩惠ニ依テ英吉利兼「アイルランド」王エドワード
I 爰ニ汝衆庶ニ告ク汝衆庶謹ンテ之ヲ聞ケ朕ハ皇天及ビ聖會ヲ尊崇シ朕カ帝國ヲ
利スルカ爲ニ更ラニ左ノ條項ヲ批准シ皇考ヘンリーノ朝ニ於テ國人一般ノ贊成ヲ
以テ確定セシ人民自由ノ約書(Magna charta) 及ヒ森林ノ約文等ハ些ノ違ヒナク一
々之ヲ我カ子孫ニ傳ヘテ遵守セシムヘシ

第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス

第三條 天皇ハ神聖ニシテ侵スベカラズ

第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此憲法ノ條規ニ依リ之ヲ

行フ

第五條 天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フ

二

(獨)憲法 第五條 帝國ノ立法權ハ上院及下院協同シテ之ヲ行フ帝國ノ法律ハ兩院ノ過半数一致シタル決議ヲ必要トス

第六條 天皇ハ法律ヲ裁可シ其公布及執行ヲ命ズ

第七條 天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其開會閉會停會及衆議院ノ解散ヲ命ズ

(獨)憲法 第十二條 皇帝ハ上院及下院ヲ召集シ及之レヲ開鎖シ且ツ延會スルノ權ヲ有ス

第八條 天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其災厄ヲ避クル爲緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス此ノ勅令ハ次ノ會議ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若シ議會ニ於テ承諾セサル時ハ政府ハ將來ニ向テ其効力ヲ失フコトヲ公布スヘシ

第九條 天皇ハ法律ヲ執行スル爲ニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及ヒ臣

民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム

但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス

(英)權理證明 第六條 朕ハ汝大僧正僧都及ヒ一切ノ僧侶候伯並ニ圍國ノ人民

ニ左ノ約束ヲ允可シ長ニ子孫ニ至ル迄敢テ渝ルコトナケン

(獨)憲法 第十七條 帝國ノ法律ヲ命令シ布告シ又ハ其ノ法律ノ實施ヲ監理スルノ權ハ皇帝ニ存スルモノトス但シ皇帝ノ命令及ヒ規準ハ帝國ノ名義ヲ以テ之ヲ公ニス云々

第十條 天皇ハ行政各部ノ官制及ヒ文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免

ス

但シ此ノ憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタル者ハ各々其條項ニ依ル

(獨)憲法 第十八條 皇帝ハ帝國ノ官吏ヲ任命シ及ヒ帝國ノ爲ニ官吏ヲシテ誓詞ヲ宣ヘシメ緊要ナル時機ニ於テハ之ヲ免黜スルノ權アリ

第十一條 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス

(獨)憲法 第五十三條 帝國陸海軍ハ皇帝ノ指揮ニ隸屬シ皇帝ハ陸海軍ノ編制ヲ司リ並ニ陸海軍ノ文武官ヲ任命スルノ權アリ但シ陸海軍人ハ皇帝ニ對シ誓詞ヲ宣フベシ

第十二條 天皇ハ陸海軍ノ編制及ヒ常備兵額ヲ定ム

第十三條 天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ス

(獨)憲法 第十一條 聯邦盟主ノ權ハ獨逸皇帝ノ名義ヲ以テ普魯西王ニ在リトス外國ノ交際ニ關シテ皇帝ハ帝國ノ代表者トナリ帝國ノ名義ヲ以テ戰ヲ宣シ和ヲ講シ同盟條約ノ權ヲ有シ使節ヲ派シ及ヒ外國ノ使節ヲ受ケルモノトス

第十四條 天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス

戒嚴ノ要件及ヒ効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 天皇ハ爵位勲章及ヒ其他ノ榮典ヲ授與ス

第十六條 天皇ハ大赦特赦減刑及ヒ役權ヲ命ス

第十七條 攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル

攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ

第二章 臣民ノ權利義務

第十八條 日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應シ均ク文武官ニ任セラレ及ヒ其他ノ公務ニ就クコトヲ得

第二十條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス

(獨)憲法 第五十七條 凡ソ獨逸人ハ兵籍ニ入ルノ義務アリ然レモ代人ヲ以テ其義務ヲ了スルコトヲ得ズ

第二十一條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納稅ノ義務ヲ有ス

(英)權理法典 第四條 國會ニ於テ認可シタルノ外帝王ノ特權ト稱シ漫リニ租稅ヲ徵收スルヲ違法トス

第二十二條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住及移轉ノ自由ヲ有ス

(獨)憲法 第四條 第一 自由移住權及ヒ人民ノ本籍兼住居參政權道路通行權外國人保管ノコトニ關スル種々ノ規則及ヒ本憲法ノ第三條ニ於テ未ダ掲ゲサル營業及保險ノコトニ關スル種々ノ規則又外國ニ移住スル人民ニ關スル種々ノ規則ヲ含ム

第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受ルコトナシ

第二十四條 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受ルノ權ヲ奪ハルコトナシ

第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除クノ外其許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及ビ搜索セラルコトナシ

第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除クノ外信書ノ秘密ヲ侵サルコトナシ

第二十七條 日本臣民ハ其所有權ヲ侵サルコトナシ
公益ノ爲メ必要ナル處分ハ法律ノ定ル所ニ依ル

第二十八條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ゲズ及ビ臣民タルノ義務ニ背カザル限リニ於テ信教ノ自由ヲ有ス

第二十九條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及結社ノ自由ヲ有ス

第三十條 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ列ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ請願ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 本章ニ掲ゲタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ妨グルコトナシ

第三十二條 本章ニ掲ゲタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ規律ニ抵觸セザルモノニ限り軍人ニ準行ス

第三章 帝國議會

第三十三條 帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス

第三十四條 貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及敎任セラレタル議員ヲ以テ組織ス

(獨)憲法 第六條 上院ハ獨逸聯邦各州代議士ヲ以テ之ヲ組織ス

第三十五條 衆議院ハ選舉法ノ定ル所ニ依リ公選セラレタル議員ヲ以テ組織ス

(獨)憲法 第二十條 下院ハ匿名投票ニ依リ全國直接選舉ヲ以テ組織ス

第三十六條 何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコトヲ得ズ

(獨)憲法 第九條 上院ノ各議員ハ下院ニ參席スルノ權ヲ有ス而テ其ノ請求ニ依リ政府ノ意見ヲ表明セント欲スル時ハ下院ハ必ス其意見ヲ容ルベシ此時ニ於テ上院ノ過半数未タ其意見ヲ容レサルモ亦同一ナルモノトス但シ議院ハ上下兩院ノ議員ヲ同時ニ兼ルヲ得ズ

第三十七條 總テ法律ハ帝國議會ノ協贊ヲ經ルヲ要ス

第三十八條 兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及各々法律案ヲ提出スルコトヲ得

(獨)憲法 第二十三條 下院ハ帝國ニ關係スヘキ事件ニ付新法ヲ起草スルノ權ヲ有シ又下院ニ提出セラレタル願書ヲ上院ノ大宰相ニ送呈スルノ權ヲ有ス

第三十九條 兩議院ノ一二於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ビ提出スルコトヲ得ズ

第四十條 兩議院ハ法律又ハ其他ノ事件ニ付各其意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得

但其採納ヲ得ザルモノハ同會期中ニ於テ再ビ建議スルコトヲ得ズ

第四十一條 帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス

(獨)憲法 第十三條 上院及ヒ下院ノ召集ハ毎年必ス之ヲナスベシ然レモ下院

ヲ召集セズシテ豫メ種々ノ事務ヲ準備スル爲ニ上院ヲ召集スルコトヲ得ベシト雖トモ上院ヲ召集セズシテ先ツ下院ヲ召集スルヲ得ス

第四十二條 帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トス必要アル場合ニ於テハ勅命ヲ以テ之ヲ延長スルコトアルヘシ

(英)議院法 (下院上院トモ)開閉期限 通例ハ毎年二月中浣ニ開會シ八月中浣ニ閉會ス但シ七箇年ヲ以テ一期トス (獨)議院法 帝國議會ハ毎年一月又ハ二月ニ開會シテ七月中ニ閉會スルヲ通常トス

第四十三條 臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スヘシ
臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅命ニ依ル

第四十四條 帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及ヒ停會ハ兩院同時ニ之ヲ行フヘシ

衆議院解散ヲ命セラレタル時ハ貴族院ハ同時ニ停會セララルヘシ

第四十五條 衆議院解散ヲ命セラレタル時ハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ選舉セシメ解散ノ日ヨリ五箇月以内ニ之レヲ召集スヘシ

(獨)憲法 第二十五條 下院ヲ解散シタル場合ニ於テハ解散シタル日ヨリ六十日ノ間ニ選舉ハテ徵集シ九十日ノ間ニ更ニ復タ下院ヲ徵集スベシ

第四十六條 兩議院ハ各々其總議員三分ノ一以上出席スルニアラサレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スルコトヲ得ス

第四十七條 兩議院ノ議事ハ過半数ヲ以テ決ス可非同數ナル時ハ議長ノ決スル所ニ依ル

(獨)憲法 第二十八條 下院ハ全員過半数一致ノ決定ヲ要ス下院ノ決定ヲシテ有効ナラシムル爲メニ此ノ憲法ニ定メタル全員ノ過半数ノ出頭ヲ必要トス下院ニ於テ此ノ憲法ニ由テ帝國ニ干涉セサル事件ヲ決定スル時ハ該事件關係シタル聯邦各州ヨリ派出シタル議員ノミ其ノ發言ヲナスヲ得ベシ

第四十八條 兩議院ノ會議ハ公開ス
但シ政府ノ要求又ハ其ノ院ノ決議ニ依リ秘密會ト爲スヲ得

(獨)憲法 第二十二條 下院ニ於テ取扱フベキ事務ハ一切公行トス下院ノ集會ニ於テ種々ノ事務ニ關スル真正ノ記事ニ就キ其ノ責ニ任セズ

第四十九條 兩議院ハ各々天皇ニ上奏スルコトヲ得

第五十條 兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ受クルヲ得

第五十一條 兩議院ハ此憲法及議院法ニ掲ルモノ、外内部ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルヲ得

第五十二條 兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及ヒ表決ニ付院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ

但シ議員自ラ其ノ言論ヲ演說刊行筆記又ハ其他ノ方法ヲ以テ公布シタルトキハ一般ノ法律ニ依リ處分セララルヘシ

(獨)憲法 第三十條 下院ノ議員ハ何人ニテモ其ノ發言職務及ビ說話ノタメニ

裁判所ニ告訴セラル可ラス或ハ何レノ方法ニテモ集會ノ外責任アルコトナシ

(英)權利法典 第九條 凡ソ國會ニ於ケル議論ハ忌諱ニ觸ル、ト雖モ國會外ニ於テ之レヲ糾彈スベカラズ

第五十三條 兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關ル罪ヲ除ク外會期中其ノ院ノ許諾ナクシテ逮捕セラル、コトナシ

(獨)憲法 第三十一條 現行犯罪ニ非ズ又タ二十四時間ニ捕拿スルニ非サレハ下院ノ承認ヲ經スシテ下院ノ議員ハ集會ノ時間罰スベキ犯罪ノ爲ニ裁判所ニ提喚セラレ又ハ捕拿セラル、ヲ得ズ

第五十四條 國務大臣及ヒ政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發言スルコトヲ得

第四章 國務大臣及樞密顧問

第五十五條 國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其ノ責ニ任ス

凡テ法律勅令其ノ他國務ニ關ル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス

第五十六條 樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議ス

第五章 司法

第五十七條 司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ

裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條 裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ズ

裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其職ヲ免ゼラル、コトナシ

懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

(英)權利法典 第十三條 凡ソ審判官ハ一旦之ニ任セラレタル者ハ犯罪惡行等アルカ或ハ兩議院連署シテ之ヲ辭任セシメント言ヒ出タル者ニ非サレハ之ヲ免黜ス可ラズ且ツ其ノ俸給ハ定額アリテ増減スルコトナカルベシ

第五十九條 裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス

但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アル時ハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

第六十條 特別裁判所ノ管轄ニ屬スベキモノハ列ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニシテ列ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スベキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限リニ在ラス

第六章 會計

第六十二條 新ニ租稅ヲ課シ及ビ稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之レヲ定ムベシ

但報償ニ屬スル行政上ノ手数料及其他ノ收納金ハ前項ノ限リニ在ラズ

國債ヲ起シ及ビ豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協贊ヲ經ベシ

第六十三條 現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之レヲ改メザル限リハ舊ニ依リ之レヲ徵收ス

第六十四條 國家ノ歲出歲入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ベシ

豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アル時ハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第六十五條 豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スベシ

第六十六條 皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ毎年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來増額ヲ要スル場合ヲ除クノ外帝國議會ノ協賛ヲ要セズ

第六十七條 憲法上ノ大權ニ基ケル規程ノ歳出及ビ法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府ノ義務ニ属スル歳出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之レヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得ズ

第六十八條 特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協賛ヲ求ムルコトヲ得

第六十九條 避クベカラサル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生ジタル必要ノ費用ニ充ル爲ニ豫備費ヲ設クベシ

第七十條 公共ノ安全ヲ保持スル爲メ緊急ノ需用アル場合ニ於テ内外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハザル時ハ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第七十一條 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セズ又ハ豫算成立ニ至ラザル時ハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシ

第七十二條 國家ノ歳出歳入ノ決算ハ會計検査員之レヲ検査確定シ政府

ハ其検査報告ト共ニ之レヲ帝國議會ニ提出スベシ
會計検査院ノ組織及び職權ハ法律ヲ以テ之レヲ定ム

第七章 補則

第七十三條 將來此憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アル時ハ勅命ヲ以テ議
案ヲ帝國議會ノ議ニ付スベシ

此場合ニ於テ兩議院ハ各々其總員三分ノ二以上出席スルニ非ザレハ議
事ヲ開クコトヲ得ス出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非ザレバ改正
ノ議決ヲ爲スコトヲ得ズ

第七十四條 皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セズ

皇室典範ヲ以テ此憲法ノ條規ヲ變更スル事ヲ得ズ

第七十五條 憲法及皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間之レヲ變更スルコトヲ得
ズ

第七十六條 法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用ヒタルニ拘ラズ此憲法ニ
矛盾セザル現行ノ法令ハ總テ遵守ノ効力ヲ有ス

歲出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ總テ第六十七條ノ例ニ
據ル

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ議院法ヲ裁可シ之ヲ公布セシメ併セテ貴族院及衆議院成立ノ日ヨリ各々本法ニ依リ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

内閣總理大臣 伯爵黒田清隆
樞密院議長 伯爵伊藤博文
外務大臣 伯爵大隈重信
海軍大臣 伯爵西郷從道
農商務大臣 伯爵井上馨
司法大臣 伯爵山田顯義

大藏大臣 兼 内務大臣 伯爵 松方正義
 陸軍大臣 伯爵 大山 巖
 文部大臣 子爵 森 有禮
 逓信大臣 子爵 榎本 武揚

法律第二號

議院法

第一章 帝國議會ノ召集成立及開會

第一條 帝國議會召集ノ勅諭ハ集會ノ期日ヲ定メ少クトモ四十日前ニ之ヲ發布スヘシ

第二條 議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ニ於テ各議院ノ會堂ニ集會

スヘシ

第三條 衆議院ノ議長副議長ハ其ノ院ニ於テ各々三名ノ候補者ヲ選舉セシメ其ノ中ヨリ之ヲ勅任スヘシ

議長副議長ノ勅任セララル、マテハ書記官長議長ノ職務ヲ行フヘシ

第四條 各議院ハ抽籤法ニ依リ總議員ヲ數部ニ分割シ每部々長一名ヲ部員中ニ於テ互選スヘシ

第五條 兩議院成立シタル後勅命ヲ以テ帝國議會開會ノ日ヲ定メ兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメ開院式ヲ行フヘシ

第六條 前條ノ場合ニ於テ貴族院議長ハ議長ノ職務ヲ行フヘシ

第二章 議長書記官及經費

第七條 各議院ノ議長副議長ハ各々一員トス

第八條 衆議院ノ議長副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

第九條 衆議院ノ議長副議長辭職又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ闕位トナリタルトキハ繼任者ノ任期ハ仍前任者ノ任期ニ依ル

第十條 各議院ノ議長ハ其ノ議院ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理シ院外ニ對シ議院ヲ代表ス

第十一條 議長ハ議會閉會ノ間ニ於テ仍其ノ議院ノ事務ヲ指揮ス

第十二條 議長ハ常任委員會及特別委員會ニ臨席シ發言スルコトヲ得但シ表決ノ數ニ預カラス

第十三條 各議院ニ於テ議長故障アルトキハ副議長之ヲ代理ス

第十四條 各議院ニ於テ議長副議長俱ニ故障アルトキハ假議長ヲ選舉シ議長ノ職務ヲ行ハシムヘシ

第十五條 各議院ノ議長副議長ハ任期滿限ニ達スルモ後任者ノ勅任セラ
ル、マテハ仍其ノ職務ヲ繼續スヘシ

第十六條 各議院ニ書記官長一人書記官數人ヲ置ク

書記官長ハ勅任トシ書記官ハ奏任トス

第十七條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ書記官ノ事務ヲ提理シ公文ニ署名ス

書記官ハ議事録及其ノ他ノ文書案ヲ作り事務ヲ掌理ス

書記官ノ外他ノ必要ナル職員ハ書記官長之ヲ任ス

第十八條 兩議院ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ支出ス

第三章 議長副議長及議員歳費

第十九條 各議院ノ議長ハ歳費トシテ四千圓副議長ハ二千圓貴族院ノ被選及勅任議員及衆議院ノ議員ハ八百圓ヲ受ケ別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ旅費ヲ受ク但シ召集ニ應セサル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ス

議長副議長及議員ハ歳費ヲ辭スルコトヲ得ス

官吏ニシテ議員タル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ス

第二十五條ノ場合ニ於テハ第一項歳費ノ外議員ノ定ムル所ニ依リ一日五圓ヨリ多カラサル手當ヲ受ク

第四章 委員

第二十條 各議院ノ委員ハ全院委員常任委員及特別委員ノ三類トス

全院委員ハ議院ノ全員ヲ以テ委員ト爲スモノトス

常任委員ハ事務ノ必要ニ依リ之ヲ數科ニ分割シ負擔ノ事件ヲ審査スル爲ニ各部ニ於テ同數ノ委員ヲ總議員中ヨリ撰舉シ一會期中其ノ任ニア
ルモノトス

特別委員ハ一事件ヲ審査スル爲ニ議員ノ撰舉ヲ以テ特ニ付託ヲ受クル
モノトス

第二十一條 全院委員長ハ一會期コトニ開會ノ始ニ於テ之ヲ選舉ス

常任委員長及特別委員長ハ各委員會ニ於テ之ヲ互選ス

第二十二條 全院委員會ハ議院三分ノ一以上常任委員會及特別委員會ハ

其ノ委員半數以上出席スルニ非サレハ議事ヲ閉キ議決ヲ爲スコトヲ得
ス

第二十三條 常任委員會及特別委員會ハ議員ノ外傍聴ヲ禁ス但シ委員會
ノ決議ニ由リ議員ノ傍聴ヲ禁スルコトヲ得

第二十四條 各委員長ハ委員會ノ經過及結果ヲ議員ニ報告スヘシ

第二十五條 各議院ハ政府ノ要求ニ依リ又ハ其ノ同意ヲ經テ議會閉會ノ
間委員ヲシテ議案ノ審査ヲ繼續セシムルコトヲ得

第五章 會議

第二十六條 各議院ノ議長ハ議事日程ヲ定メテ之ヲ議員ニ報告ス

議事日程ハ政府ヨリ提出シタル議案ヲ先ニスヘシ但シ他ノ議事緊急ノ

場合ニ於テ政府ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 法律ノ議案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決スヘシ但シ政府ノ要求

若クハ議員十人以上ノ要求ニ由リ議院ニ於テ出席議員三分ノ二以上ノ
多數ヲ以テ可決シタルトキハ三讀會ノ順序ヲ省略スルコトヲ得

第二十八條 政府ヨリ提出シタル議案ハ委員ノ審査ヲ經スシテ之ヲ議決
スルコトヲ得ス但シ緊急ノ場合ニ於テ政府ノ要求ニ由ルモノハ此ノ限
ニ在ラス

第二十九條 凡テ議案ヲ發議シ及議院ノ會議ニ於テ議案ニ對シ修正ノ動
議ヲ發スル者ハ二十人以上ノ賛成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得
ス

第三十條 政府ハ何時タリトモ既ニ提出シタル議案ヲ修正シ又ハ撤回スルコトヲ得

第三十一條 凡テ議案ハ最後ニ議決シタル議院ノ議長ヨリ國務大臣ヲ經由シテ之ヲ奏上スヘシ

但シ兩議院ノ一二於テ提出シタル議案ニシテ他ノ議院ニ於テ否決シタルトキハ第五十四條第二項ノ規定ニ依ル

第三十二條 兩議院ノ議決ヲ經テ奏上シタル議案ニシテ裁可セラル、モノハ次ノ會期マテニ公布セラルヘシ

第六章 停會閉會

第三十三條 政府ハ何時タリトモ十五日以内ニ於テ議院ノ停會ヲ命スル

コトヲ得

議院停會ノ後再ヒ開會シタルトキハ前會ノ議事ヲ繼續スヘシ

第三十四條 衆議院ノ解散ニ依リ貴族院ニ停會ヲ命シタル場合ニ於テハ前條第二項ノ例ニ依ラス

第三十五條 帝國議會閉會ノ場合ニ於テ議案建議請願ノ議決ニ至ラサルモノハ後會ニ繼續セス但シ第二十五條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 閉會ハ勅命ニ由リ兩議院合會ニ於テ之ヲ舉行スヘシ

第七章 秘密會議

第三十七條 各議院ノ會議ハ左ノ場合ニ於テ公開ヲ停ムルコトヲ得

- 一 議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ議院之ヲ可決シタルトキ

二 政府ヨリ要求ヲ受ケタルトキ

第三十八條 議長又ハ議員十人以上ヨリ秘密會議ヲ發議シタルトキハ議長ハ直ニ傍聽人ヲ退去セシメ討論ヲ用井スシテ可否ノ決ヲ取ルヘシ

第三十九條 秘密會議ハ刊行スルコトヲ許サス

第八章 豫算案ノ議定

第四十條 政府ヨリ豫算案ヲ衆議院ニ提出シタルトキハ豫算委員ハ其ノ院ニ於テ受取りタル日ヨリ十五日以内ニ審査ヲ終リ議院ニ報告スヘシ

第四十一條 豫算案ニ就キ議院ノ會議ニ於テ修正ノ動議ヲ發スルモノハ三十人以上ノ賛成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第九章 國務大臣及政府委員

四十二條 國務大臣及政府委員ノ發言ハ何時タリトモ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲ニ議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第四十三條 議院ニ於テ議案ヲ委員ニ付シタルトキハ國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ委員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第四十四條 委員會ハ議長ヲ經由シテ政府委員ノ説明ヲ求ムルコトヲ得

第四十五條 國務大臣及政府委員ハ議員タル者ヲ除ク外議院ノ會議ニ於テ表決ノ數ニ預カラス

第四十六條 常任委員會又ハ特別委員會ヲ開クトキハ每會委員長ヨリ其ノ主任ノ國務大臣及政府委員ニ報知スヘシ

第四十七條 議事日程及議事ニ關ル報告ハ議員ニ分配スルト同時ニ之ヲ

國務大臣及政府委員ニ送付スヘシ

三十六

第十章 質問

第四十八條 兩議院ノ議員政府ニ對シ質問ヲ爲サントスルトキハ三十人以上ノ賛成者アルヲ要ス

質問ハ簡明ナル主意書ヲ作り賛成者ト共ニ連署シテ之ヲ議長ニ提出スヘシ

第四十九條 質問主意書ハ議長之ヲ政府ニ轉送シ國務大臣ハ直ニ答辯ヲ爲シ又ハ答辯スヘキ期日ヲ定メ若答辯ヲ爲サハルトキハ其ノ理由ヲ示明スヘシ

第五十條 國務大臣ノ答辯ヲ得又ハ答辯ヲ得サルトキハ質問ノ事件ニ付

議員ハ建議ノ動議ヲ爲スコトヲ得

第十一章 上奏及建議

第五十一條 各議院上奏セントスルトキハ文書ヲ奉呈シ又ハ議長ヲ以テ總代トシ謁見ヲ請ヒ之ヲ奉呈スルコトヲ得

各議院ノ建議ハ文書ヲ以テ政府ニ呈出スヘシ

第五十二條 各議院ニ於テ上奏又ハ建議ノ動議ハ三十人以上ノ賛成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第十二章 兩議院關係

第五十三條 豫算ヲ除ク外政府ノ議案ヲ付スルハ兩議院ノ内何レヲ先ニスルモ便宜ニ依ル

三十七

第五十四條 甲議院ニ於テ政府ノ議案ヲ可決シ又ハ修正シテ議決シタルトキハ乙議院ニ之ヲ移スヘシ乙議院ニ於テ甲議院ノ議決ニ同意シ又ハ否決シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ甲議院ニ通知スヘシ
乙議院ニ於テ甲議院ノ提出シタル議案ヲ否決シタルトキハ之ヲ甲議院ニ通知スヘシ

第五十五條 乙議院ニ於テ甲議院ヨリ移シタル議案ニ對シ之ヲ修正シタルトキハ之ヲ甲議院ニ回付スヘシ甲議院ニ於テ乙議院ノ修正ニ同意シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ乙議院ニ通知スヘシ若之ニ同意セサルトキハ兩院協議會ヲ開クコトヲ求ムヘシ
甲議院ヨリ協議會ヲ開クコトヲ求ムルトキハ乙議院ハ之ヲ拒ムコトヲ

得ス

第五十六條 兩院協議會ハ兩議院ヨリ各十人以下同數ノ委員ヲ選舉シ會同セシム委員ノ協議案成立スルトキハ議案ヲ政府ヨリ受取り又ハ提出シタル甲議院ニ於テ先ツ之ヲ議シ次ニ乙議院ニ移スヘシ
協議會ニ於テ成立シタル成案ニ對シテハ更ニ修正ノ動議ヲ爲スコトヲ許サス

第五十七條 國務大臣政府委員及各議院ノ議長ハ何時タリトモ兩院協議會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第五十八條 兩院協議會ハ傍聽ヲ許サス

第五十九條 兩院協議會ニ於テ可否ノ決ヲ取ルハ無名投票ヲ用井可否同

數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第六十條 兩院協議會ノ議長ハ兩議院協議委員ニ於テ各一員ヲ互選シ
每會更代シテ席ニ當ラシムヘシ其ノ初會ニ於ケル議長ハ抽籤法ヲ以テ
之ヲ定ム

第六十一條 本章ニ定ムル所ノ外兩議院交渉事務ノ規程ハ其ノ協議ニ依
リ之ヲ定ムヘシ

第十三章 請願

第六十二條 各議院ニ呈出スル人民ノ請願書ハ議員ノ紹介ニ依リ議院之
ヲ受取ルヘシ

第六十三條 請願書ハ各議院ニ於テ請願委員ニ付シ之ヲ審査セシム

請願委員請願書ヲ以テ規程ニ合ハスト認ムルトキハ議長ハ紹介ノ議員
ヲ經テ之ヲ却下スヘシ

第六十四條 請願委員ハ請願文書表ヲ作り其ノ要領ヲ録シ每週一回議院
ニ報告スヘシ

請願委員特別ノ報告ニ依レル要求又ハ議員三十人以上ノ要求アルトキ
ハ各議院ハ其ノ請願事件ヲ會議ニ付スヘシ

第六十五條 各議院ニ於テ請願ノ採擇スヘキコトヲ議決シタルトキハ意
見書ヲ附シ其ノ請願書ヲ政府ニ送付シ事宜ニ依リ報告ヲ求ムルコトヲ
得

第六十六條 法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ヲ除ク外總代ノ名義ヲ以

テスル請願ハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十七條 各議院ハ憲法ヲ變更スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第六十八條 請願書ハ總テ哀願ノ體式ヲ用ウヘシ若請願ノ名義ニ依ラス

若ハ其ノ體式ニ違フモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十九條 請願書ニシテ皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用井政府又ハ議院ニ對

シ侮辱ノ語ヲ用井ルモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第七十條 各議院ハ司法及行政裁判ニ干預スルノ請願ヲ受クルコトヲ得

ス

第七十一條 各議院ハ各列ニ請願ヲ受ケ互ニ相干預セス

第十四章 議院ト人民及官廳地方議會トノ關係

第七十二條 各議院ハ人民ニ向テ告示ヲ發スルコトヲ得ス

第七十三條 各議院ハ審査ノ爲ニ人民ヲ召喚シ及議員ヲ派出スルコトヲ得ス

第七十四條 各議院ヨリ審査ノ爲ニ政府ニ向テ必要ナル報告又ハ文書ヲ

求ムルトキハ政府ハ秘密ニ涉ルモノヲ除ク外其ノ求ニ應スヘシ

第七十五條 各議院ハ國務大臣及政府委員ノ外他ノ官廳及地方議會ニ向テ照會往復スルコトヲ得ス

第十五章 退職及議員資格ノ異議

第七十六條 衆議院ノ議員ニシテ貴族院議員ニ任セラレ又ハ法律ニ依リ

議員タルコトヲ得サル職務ニ任セラレタルトキハ退職者トス

第七十七條 衆議院ノ議員ニシテ選舉法ニ記載シタル被選ノ資格ヲ失ヒタルトキハ退職者トス

第七十八條 衆議院ニ於テ議員ノ資格ニ付異議ヲ生シタルトキハ特ニ委員ヲ設ケ時日ヲ期シ之ヲ審査セシメ其ノ報告ヲ待テ之ヲ議決スヘシ

第七十九條 裁判所ニ於テ當選訴訟ノ裁判手續ヲ爲シタルモノハ衆議院ニ於テ同一事件ニ付審査スルコトヲ得ス

第八十條 議員其ノ資格ナキコトヲ證明セラル、ニ至ルマテハ議院ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失ハス但シ自身ノ資格審査ニ關ル會議ニ對シテハ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ表決ニ預カルコトヲ得ス

第十六章 請暇辭職及補闕

第八十一條 各議院ノ議長ハ一週間ニ超エサル議員ノ請暇ヲ許可スルコトヲ得其ノ一週間ヲ超ユルモノハ議院ニ於テ之ヲ許可ス期限ナキモノハ之ヲ許可スルコトヲ得ス

第八十二條 各議院ノ議員ハ正當ノ理由ヲ以テ議長ニ届出スシテ會議又ハ委員會ニ闕席スルコトヲ得ス

第八十三條 衆議院ハ議員ノ辭職ヲ許可スルコトヲ得

第八十四條 何等ノ事由ニ拘ラス衆議院議員ニ關員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ内務大臣ニ通牒シ補闕選舉ヲ求ムヘシ

第十七章 紀律及警察

第八十五條 各議院閉會中其ノ紀律ヲ保持セムカ爲内部警察ノ權ハ此ノ

法律及各議院ニ於テ定ムル所ノ規則ニ從ヒ議長之ヲ施行ス

第八十六條 各議院ニ於テ要スル所ノ警察官吏ハ政府之ヲ派出シ議長ノ指揮ヲ受ケシム

第八十七條 會議中議員此法律若ハ議事規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムルコトヲ得

第八十八條 議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第八十九條 傍聽人議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ退場セシ

メ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ警察官廳ニ引渡サシムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得

第九十條 議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ國務大臣政府委員及議員ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第九十一條 各議院ニ於テ皇室ニ對シ不敬ノ言語論說ヲ爲スコトヲ得ス

第九十二條 各議院ニ於テ無禮ノ語ヲ用井ルコトヲ得ス及他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第九十三條 議院又ハ委員會ニ於テ誹毀侮辱ヲ被リタル議員ハ之ヲ議院ニ訴ヘテ處分ヲ求ムヘシ私ニ相報復スルヲ得ス

第十八章 懲罰

第九十四條 各議院ハ其ノ議員ニ對シ懲罰ノ權ヲ有ス

第九十五條 各議院ニ於テ懲罰事犯ヲ審査スル爲ニ懲罰委員ヲ設ク

懲罰事犯アルキハ議長ハ先ツ之ヲ委員ニ付シ審査セシメ議院ノ議ヲ經テ之ヲ宣告ス

各委員會又ハ各部ニ於テ懲罰事犯アルトキハ委員長又ハ部長ハ之ヲ議長ニ報告シ處分ヲ求ムヘシ

第九十六條 懲罰ハ左ノ如シ

- 一 公開シタル議場ニ於テ譴責ス
- 二 公開シタル議場ニ於テ適當ノ謝辭ヲ表セシム

三 一定ノ時間出席ヲ停止ス

四 除名

衆議院ニ於テ除名ハ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決スヘシ

第九十七條 衆議院ハ除名ノ議員再選ニ當ル者ヲ拒ムコトヲ得ス

第九十八條 議員ハ二十人以上ノ贊成ヲ以テ懲罰ノ動議ヲ爲スコトヲ得

懲罰ノ動議ハ事犯アリシ後三日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第九十九條 議員正當ノ理由ナクシテ勅諭ニ指定シタル期日後一週間内

ニ召集ニ應セサルニ由リ又ハ正當ノ理由ナクシテ會議又ハ委員會ニ闕席スルニ由リ若ハ請暇ノ期限ヲ過キタルニ由リ議長ヨリ特ニ招狀ヲ發シ其ノ招狀ヲ受ケタル後一週間内ニ仍故ナク出席セサル者ハ貴族院ニ

於テハ其ノ出席ヲ停止シ上奏シ勅裁ヲ請フヘク衆議院ニ於テハ之ヲ除名スヘシ

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ衆議院議員選舉法及附録ヲ裁可シ之ヲ公布セシメ併セテ帝國議會ヲ召集スルノ年ヨリ本法ニ依リ選舉ヲ施行セシムヘキトヲ命ス

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

- 内閣總理大臣 伯爵黑田清隆
- 樞密院議長 伯爵伊藤博文
- 外務大臣 伯爵大隈重信
- 海軍大臣 伯爵西鄉從道
- 農商務大臣 伯爵井上馨

司 法 大 臣 伯爵山田顯義
 大藏大臣兼内務大臣 伯爵松方正義
 陸 軍 大 臣 伯爵大山 巖
 文 部 大 臣 子爵森 有禮
 逓 信 大 臣 子爵榎本武揚

法律第三號

衆議院議員選舉法

第一章 選舉區畫

第一條 衆議院ノ議員ハ各府縣ノ選舉區ニ於テ之ヲ選舉セシム其ノ選舉區及各選舉區ニ於テ選舉スヘキ定員ハ此ノ法律ノ附録ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 府縣知事ハ其ノ府縣ノ選舉區ノ選舉ヲ監督ス

一 選舉區ノ選舉ハ郡長又ハ市長其ノ選舉長トナリ之ヲ管理ス

第三條 一 選舉區ニシテ數郡市ニ涉ルトキハ府縣知事ハ其ノ郡長又ハ市長ノ一人ヲ命シ選舉長タラシムヘシ

第四條 一 市ノ域内ニ於テ數選舉區アルトキハ府縣知事ハ區長ヲシテ其ノ選舉長タラシムヘシ

第五條 選舉ニ關ル費用ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

第二章 選舉人ノ資格

第六條 選舉人ハ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

第一 日本臣民ノ男子ニシテ年齡滿二十五歳以上ノ者

第二 選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ住居シ仍引續キ住居スル者

第三 選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル

第七條 家督ニ由リ財産ヲ相續シタル者ハ其ノ財産ニ付前財産主ノ納稅額ヲ以テ其ノ納稅資格ニ算入ス

第三章 選舉人ノ資格

第八條 選舉人タルコトヲ得ル者ハ日本臣民ノ男子滿三十歳以上ニシテ

撰舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ撰舉府縣内ニ於テ真接國稅十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者タルヘシ

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル

第九條 官内官裁判官會計検査官收稅官及警察官ハ被選舉人タルコトヲ得ス

前項ノ外ノ官吏ハ其職務ニ妨ケサル限ハ議員ト相兼ヌルコトヲ得

第十條 府縣及郡ノ官吏ハ其ノ管轄區域内ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

第十一條 選舉ノ管理ニ關係スル市町村ノ吏員ハ其ノ選舉區ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

第十二條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ被選人タルコトヲ得ス

第十三條 府縣會ノ議員ニシテ衆議院ノ議員ニ選舉セラレ當選ヲ承諾シタルトキハ其ノ前職ヲ辭スヘキモノトス

第四章 選舉人及被選人ニ通スル規定

第十四條 左ノ項ノ一ニ觸ル、者ハ選舉人及被選人タルコトヲ得ス

- 一 瘋癲白癡ノ者
- 二 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者
- 三 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ停止中ノ者
- 四 禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者
- 五 舊法ニ依リ一年以上ノ懲役若ハ國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ滿期ノ

後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

六 賭博犯ニ由リ處刑ヲ受ケ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

七 選舉ニ關ル犯罪ニ由リ選舉權及被選權ノ停止中ノ者

第十五條 陸海軍軍人ハ現役中選舉權ヲ行フコトヲ得ス及被選人タルコトヲ得ス其ノ休職停職ニ在ル者亦同シ

第十六條 華族ノ當主ハ衆議院議員ノ選舉人及被選人タルコトヲ得ス

第十七條 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ選舉權ヲ行フコトヲ得ス及被選人タルコトヲ得ス

第五章 選舉人名簿

第十八條 選舉長ハ毎年四月一日ヲ期トシ各町村長ヲシテ一ノ投票區域

内ニ於テ選舉資格ヲ有スル者ヲ調査シ人名簿二本ヲ調製シ同月二十日
マテニ其ノ一本ヲ差出サシムヘシ

選舉人名簿ハ選舉人ノ姓名官位職業身分住所生年月納ムル所ノ直接國
稅ノ總額並ニ納稅地ヲ記載スヘシ

第十九條 市ニ於テハ左ノ方法ニ依リ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

第一 一市又ハ市内ノ一區ヲ以テ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ選
舉長其ノ人名簿ヲ調製スヘシ

第二 市内ニアル數區ヲ合シテ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ各區
長ヲシテ其ノ區内ノ人名簿ヲ調製シ選舉長ニ差出サシムヘシ

第三 郡市ヲ合シテ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テ郡長其ノ選舉長ト

ナリタルトキハ市長ヲシテ其ノ人名簿ヲ調製シ之ヲ差出サシムヘシ

第四 第三ノ場合ニ於テ市長其ノ選舉長トナリタルトキハ市長其ノ市
内ノ人名簿ヲ調製スヘシ

第二十條 選舉人其ノ住居スル投票區域ノ外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルト

キハ納稅地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ノ證狀ヲ得テ選舉人名簿調製ノ
期日マテニ其ノ投票ヲ管理スル町村長又ハ市長若ハ區長ニ差出スヘシ

第二十一條 選舉長ハ各町村長又ハ市長若ハ區長ヨリ差出シタル選舉人

名簿ヲ合シ一選舉區ヲ以テ一冊トシ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ
區役所ニ備置キ其副本ヲ府縣知事ニ送致スヘシ

第二十二條 選舉長ハ毎年五月五日ヨリ十五日間一選舉區選舉人名簿ノ

寫ヲ其ノ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ縦覽セシムヘシ

第二十三條 凡テ選舉資格アル者選舉人名簿ニ於テ人名ノ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其理由書及證憑ヲ具ヘテ縦覽期限内ニ選舉長ニ申立テ其ノ改正ヲ求ムルコトヲ得

縦覽期限ヲ經過シタル後前項ノ申立ヲ爲スモ其ノ効ナシ

第二十四條 選舉長ニ於テ脱漏ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證憑ヲ審査シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若其ノ申立ヲ以テ正當ナリト判定シタルトキハ直ニ其ノ人名ヲ記載シ其由ヲ當人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選舉區内ニ告示ス

ヘシ

第二十五條 選舉長ニ於テ誤載ノ申立ヲ受ケタルキハ其ノ理由及證憑ヲ審査シ必要ナル場合ニ於テハ申立人又ハ被告人ヲ召喚審問シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若誤載ナリト判定シタルトキハ直ニ之ヲ削除シ其ノ由ヲ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選舉區内ニ告示スヘシ

第二十六條 申立人又ハ被告人ニ於テ選舉長ノ判定ニ服セサルトキハ選舉長ヲ被告トシ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十七條 始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取リタルトキハ他ノ訴訟

ノ順序ニ拘ラス速ニ其ノ裁判ヲ爲スヘシ

第二十八條 前條ニ於ケル始審裁判所ノ裁判ハ控訴スルコトヲ許サス但シ大審院ニ上告スルコトヲ得

第二十九條 選舉人名簿ハ六月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ調製ノ日マテ之ヲ据置クヘシ但シ裁判言渡書ニ依リ改正スヘキモノハ選舉長ニ於テ其ノ言渡書ヲ受取タルトキヨリ二十四時間内ニ之ヲ改正シ其ノ由ヲ申立人又ハ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ撰舉區内ニ告示スヘシ

第六章 撰舉ノ期日及投票所

第三十條 撰舉ノ投票ハ通常七月一日ニ之ヲ行フ但シ衆議院解散ヲ命ゼ

ラレタルトキハ勅令ヲ以テ臨時撰舉ノ期日ヲ定メ少クトモ三十日以前ニ公布スヘシ

第三十一條 投票所ハ町村役場又ハ町村長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ設ケ町村長之ヲ管理ス

第三十二條 一町村ニ於テ撰舉人少數ニシテ一ノ投票所ヲ設クルニ足ラサルトキハ數町村ヲ合併スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ郡長ハ府縣知事ノ認可ヲ經テ合併ノ町村及投票所並ニ投票所管理ノ町村長ヲ指定スヘシ

第三十三條 町村長ハ其ノ管理スル投票區域内ニ於ケル撰舉人中ヨリ立會人二名以上五名以下ヲ定メ遅クトモ撰舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ

本人ニ通知シ撰舉ノ當日投票所ニ參會セシムヘシ

立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第七章 投票

第三十四條 投票ハ午前七時ニ始メ午後六時ニ終ル

第三十五條 投票函ハ二重ノ蓋ヲ造リ二種ノ鑰ヲ設ケ其ノ一ハ町村長之

ヲ管守シ其ノ一ハ立會人之ヲ管守スヘシ

第三十六條 町村長ハ投票ノ初ニ當リ立會人ト共ニ參會シタル選舉人ノ

面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虚ナルコトヲ示スヘシ

第三十七條 選舉人ハ選舉ノ當日本人自ラ投票所ニ至リ撰舉人名簿ノ對

照ヲ經テ投票スヘシ

第三十八條 投票用紙ハ各府縣各一定ノ式ヲ用井選舉ノ當日投票所ニ

於テ町村長ヨリ之ヲ各選舉人ニ交付スヘシ

選舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ被選人ノ姓名ヲ記載シ次ニ自己ノ姓名住所ヲ記載シテ捺印スヘシ

第三十九條 選舉人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由ヲ申立ツルトキ

ハ町村長ハ吏員ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀ミ聞カセ捺印投票セシメ其ノ由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十條 二人以上ノ議員ヲ選舉スヘキ選舉區ニ於テハ連名投票ヲ用ウヘシ

第四十一條 選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルコトヲ得ス但

シ選舉人名簿ニ記載セラルヘキ裁判言渡書ヲ所持シ選舉ノ當日投票所ニ至ル者アルトキハ町村長ハ投票用紙ヲ交付シ投票セシメ其ノ由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十二條 票投終ルノ時期ニ至リタルトキハ町村長ハ其ノ由ヲ告ケ投票函ヲ閉鎖スヘシ投票函閉鎖ノ後ハ總テ投票スルコトヲ許サス

第四十三條 町村長ハ投票明細書ヲ作り投票ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ立會人ト共ニ署名スヘシ

第四十四條 町村長ハ一名又ハ數名ノ立會人ト共ニ投票ノ翌日投票函及投票明細書ヲ併セテ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ送致スヘシ

第四十五條 一選舉區内ニアル島嶼ニシテ前條ノ期限内ニ投票函ヲ送致スルコト能ハサル情况アルトキハ府縣知事ハ人名簿確定ノ日ヨリ選舉ノ期日マテノ間ニ於テ適宜ニ其ノ投票ノ期日ヲ定メ選舉會ノ期日マテニ其ノ投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第八章 選舉會

第四十六條 選舉會ハ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ之ヲ開ク

第四十七條 選舉長ハ各投票所ヨリ參會シタル立會人ノ中ヨリ抽籤ヲ以テ選舉委員三名以上七名以下ヲ定ムヘシ

第四十八條 選舉長ハ投票函送達ノ翌日選舉委員立會ノ上各投票函ヲ開

キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ若投票ト投票人トノ總數ニ差異ヲ生シタルトキハ其ノ由ヲ選舉明細書ニ記載スヘシ

第四十九條 總數ノ計算ヲ終リタルトキハ選舉長ハ選舉委員ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

第五十條 各選舉區ノ選舉人ハ其ノ選舉會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第五十一條 左ニ掲クル投票ハ無効トス

- 一 選舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但シ裁判言渡書ヲ所持シタルニ依リ投票シタル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 二 成規ノ用紙ヲ用井サルモノ
- 三 選舉人自己ノ姓名ヲ記載セサルモノ

四 資格ナキ被選人ノ姓名ヲ記載スルモノ但シ連名投票ニ列記スル人員中資格アル者ニ付テハ其ノ効アルモノトス

五 誤字又ハ汚漆塗抹毀損ニ依リ記載スル所ノ選舉人又ハ被選人ノ姓名ヲ認知スヘカラサルモノ但シ通常ノ假名字ヲ用井又ハ誤字ニ係ルモノモ明ニ其ノ姓名ヲ認知スルコトヲ得ルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 第三十八條第二項ニ規定シタル外他ノ文字ヲ記載シタルモノ但シ被選人ノ指名ヲ誤ラサル爲ニ其ノ官位職業身分住所ヲ附記シ又ハ敬稱ヲ用井タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ選舉委員ノ意見ヲ聞キ選舉長之ヲ決定ス此ノ決定ニ對シテハ選舉會場ニ於テ異議ヲ申立ツル

コトヲ得ス

七十

第二十三條 無効ノ投票ハ抹線ヲ加ヘ其ノ由ヲ選舉明細書ニ記載シ一箇年間保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ

第五十四條 一投票ニシテ其ノ選舉スヘキ定員ヨリ多キ被選人ノ姓名ヲ記載シタルトキハ其ノ定員ニ超エタル人名ヲ末尾ヨリ除却スヘシ
連名投票ニシテ其ノ選舉スヘキ定員ニ足ラサルトキハ現ニ記載シタル者ノミヲ計算スヘシ但シ一人ノ姓名ヲ複記シタル者ハ一人トシテ之ヲ計算スヘシ

第五十五條 投票ハ六十日間郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ

第五十六條 選舉ニ關リ訴訟又ハ告訴告發アルトキハ第五十三條第五十五條ノ期限ヲ經過スルモ裁判確定ニ至ルマテ其ノ投票ヲ保存スヘシ
第五十七條 選舉長ハ選舉明細書ヲ作り選舉點檢ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ選委舉員ト共ニ署名シ之ヲ保存スヘシ

第九章 當選人

第五十八條 投票總數ノ最多數ヲ得タル者ハ之ヲ當選人トス
投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五十九條 當選人定マリタルトキハ選舉長ハ直ニ其ノ姓名及投票ノ數ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

七十一

第六十條 府縣知事前條ノ届出ヲ受ケタルトキハ各當選人ニ通知シ其ノ姓名ヲ管内ニ告示スヘシ

第六十一條 當選人當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十二條 一人ニシテ數選舉區ノ當選人トナリタル者當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ何レノ選舉區ノ當選ヲ承諾スル旨ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十三條 當選人其ノ府縣内ニ在ル者ハ十日以内其ノ府縣外ニ在ル者ハ二十日以内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲サ、ルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト見做スヘシ

第六十四條 當選人ニシテ其當選ヲ辭シ又ハ期限内ニ其ノ當選ノ承諾ヲ

届出サルトキハ府縣知事ハ選舉ノ期日ヲ定メ其ノ選舉長ニ命シ再ヒ選舉ヲ行ハシムヘシ但シ第五十八條第二項ノ場合ニ於テ抽籤ニ依リ當選ヲ得タル者其ノ當選ヲ辭シ又ハ其ノ承諾ヲ届出サルトキハ抽籤ニ依リ當選ヲ失ヒタル者ヲ以テ當選人ト定ムヘシ

第六十五條 各選舉區ノ當選人確定シタルトキハ府縣知事ハ當選證書ヲ付與シ及管内ニ告示シ竝ニ當選人ノ資格ヲ録シテ内務大臣ニ具申スヘシ

第十章 議員ノ任期及補闕選舉

第六十六條 議員ノ任期ハ四箇年トス但シ任期ヲ終リタル後仍選舉ニ應スルコトヲ得

第六十七條 議員ノ闕員アルニ由リ内務大臣ヨリ補闕選舉ヲ開クヘキ旨ヲ命セラレタルトキハ府縣知事ハ其ノ命ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ闕員ノ選舉區ニ限リ臨時選舉ヲ行ヒ補闕議員ヲ選舉セシムヘシ

第六十八條 補闕議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル
第十一章 投票所取締

第六十九條 投票管理ノ町村長ハ投票所ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ニ付スルコトヲ得

第七十條 凡テ戎器又ハ兇器ヲ携帯スル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サス
第七十一條 選舉人ニ非サル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サス

第七十二條 投票所ニ於テハ一切ノ演說討論及喧噪ニ涉リ又ハ他人ノ投票

票ヲ勸誘スルコトヲ禁ス

第七十三條 投票所ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ町村長ハ之ヲ警戒シ其ノ命ニ従ハサルトキハ之ヲ投票所ノ外ニ退出セシムヘシ

第七十四條 投票所ノ外ニ退出セシメタル者ハ犯罪者ヲ除ク外其ノ投票ヲ爲サシムル爲ニ再ヒ投票所ノ内ニ呼入ルコトヲ得

第七十五條 投票所ニ參會シタル選舉人ニシテ刑法又ハ此ノ法律ノ罰則ヲ犯シタル者ハ投票スルコトヲ禁シ其ノ姓名事由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第七十六條 投票ニ關ル異議ノ申立ニ付町村長ノ決定ニ對シテハ投票所ニ於テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七十七條 選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ選舉會ノ參觀ヲ求ムル者ハ總テ第六十九條ヨリ第七十三條ニ至ルマテノ例ニ照シ選舉長之ヲ處分スヘシ

第十二章 當選訴訟

第七十八條 各選舉區ニ於テ當選ヲ失ヒタル者當選人ノ當選ヲ無効トスルノ理由アリト認ムルトキハ當選人ヲ被告トシ第六十五條ニ掲ケタル當選人ノ姓名告示ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得其ノ期限ヲ經過シタル後出訴スルモ其ノ効ナシ

第七十九條 原告人ハ訴訟狀ト共ニ保證金トシテ金三百圓又ハ之ニ相當スル公債證書ヲ控訴院書記局ニ預置クヘシ

第八十條 原告人敗訴ノ場合ニ於テ裁判言渡ノ日ヨリ七日以内ニ一切ノ裁判費用ヲ納完セサルトキハ保證金ヨリ之ヲ控除シ仍足ラサルトキハ之ヲ追徴スヘシ

第八十一條 同一ノ當選人ニ對シ二人以上ノ原告人訴訟ヲ爲シタルトキハ控訴院ハ一ノ裁判言渡書ヲ以テ各訴訟人ニ宣告スルコトヲ得

第八十二條 審判中衆議院解散ノ命アルトキハ控訴院ハ其ノ訴訟ヲ棄却スヘシ

第八十三條 原告人訴訟ヲ願下ルトキハ同時ニ其ノ由ヲ新聞紙又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

第八十四條 控訴院ハ當選訴訟ヲ審判スルニ當リ本訴ニ關係スル刑法又

ハ此ノ法律ノ犯罪者ニ對シ直ニ處刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ檢察官ヲシテ立會ハシムヘシ
當選訴訟ニ關係セサル場合ニ於ケル此ノ法律ノ犯罪者ハ所轄刑事裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第八十五條 控訴院ニ於テ當選訴訟ヲ判定シタルトキハ其ノ裁判言渡書ノ謄本ヲ内務大臣ニ送付スヘシ若衆議院開會スルトキハ併セテ之ヲ議長ニ送付スヘシ

第八十六條 當選訴訟ニ付控訴院ノ裁判ニ對シテハ大審院ニ上告スルコトヲ得

第八十七條 訴訟ノ目的タル當選人ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ衆議院ニ

列席スルノ權ヲ失ハス

第八十八條 當選訴訟ニ付本章ニ規定シタルモノ、外總テ普通ノ訴訟手續ニ依ル

第十三章 罰則

第八十九條 納税額年齢住所及其ノ他選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ

選舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

其ノ授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第九十一條 直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス

其ノ授與又ハ約束ヲ受ケ投票ヲ爲シ又ハ投票ヲ爲サ、ル者亦同シ

第九十二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘタルモノハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十三條 選舉人ニ暴行ヲ加ヘテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ

若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ三月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十四條 選舉人ヲ強逼シ又ハ投票所若ハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若ハ劫奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ聚集シタル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
其ノ情ヲ知テ聚集ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ

第九十五條 選舉ノ際管理者又ハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ投票所若ハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若ハ劫奪シタル者ハ

四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各、本刑ニ一等ヲ加フ

第九十六條 多衆ヲ聚集シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ重禁獄ニ處ス

其ノ情ヲ知テ聚集ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各、本刑ニ一等ヲ加フ

第九十七條 演說又ハ新聞紙若ハ其ノ他ノ文書ヲ以テ人ヲ教唆シ前三條ノ罪ヲ犯サシメタル者ハ刑法第百五條ノ例ニ依ル其ノ教唆ノ効ナキ者モ仍本刑ニ二等又ハ三等ヲ減シ處斷ス

第九十八條 戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ投票所若ハ選舉會場ニ入りタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條 當選人ニ於テ第八十九條ヨリ第九十八條ニ至ルマテノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ハ無効トス

第一百條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シタル者及第十四條ニ依リ選舉人タルコトヲ得サル者投票ヲ爲シタルトキハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百一條 前數條ノ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ再ヒ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ハ三年以上七年以下選舉權及被選舉權ヲ停止ス

第一百二條 立會人正當ノ事故ナクシテ此ノ法律ニ規定シタル義務ヲ缺ク

トキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三條 本章ニ規定シタル罰則ノ外刑法ニ正條アルモノハ各其ノ條ニ依リ重キニ從テ處斷ス

第百四條 凡テ選舉ニ關ル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第百五條 此ノ罰則ハ第十一章ノ各條ト共ニ投票所及選舉會場ニ貼示ス

ハシ

第十四章 補則

第百六條 市ニ於テハ一市ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及選舉ノ管理ハ市長兼テ之ヲ掌ルヘシ

第百七條 前條ノ場合ニ於テハ一選舉區ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及選舉ノ管理ハ市長兼テ之ヲ掌ルヘシ

タル投票及選舉ノ管理ハ區長兼テ之ヲ掌ルヘシ

第百七條 前條ノ場合ニ於テハ市長又ハ區長ヲ其ノ管理スル選舉區内ニ於ケル選舉人中ヨリ立會人三名以上七名以下ヲ定メ選クトモ選舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日選舉管理ノ市役所又ハ區役所ニ參會セシムヘシ

立會人ハ投票ニ立會ヒ併セテ投票ヲ點檢スヘシ

此ノ場合ニ於ケル選舉明細書ハ併セテ投票ノ事項ヲ記載スヘシ

第百八條 島司ヲ置ク地方ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル選舉長ノ職務

ハ島司之ヲ掌ルヘシ

第百九條 町村制ヲ施行セサル町村ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル町村

長ノ職務ハ戸長之ヲ掌ルヘシ

第百十條 選舉人名簿調製ノ初年ニ限り所得税法施行以來第六條第八條

ニ規定シタル納税額ヲ引續キ納完シタル者ハ其ノ納税資格ノ期限ニ充ツルモノト見做スヘシ

第百十一條 北海道沖繩縣及小笠原島ニ於テハ將采一般ノ地方制度ヲ準行スルノ時ニ至ルマテ此ノ法律ヲ施行セス

衆議院議員選舉法附錄

| | | | |
|-----|---------|------|--------|
| 東京府 | 議員總數十二人 | 京都府 | 議員總數七人 |
| 大阪府 | 同 十人 | 神奈川縣 | 同 七人 |
| 兵庫縣 | 同 十二人 | 長崎縣 | 同 七人 |
| 新潟縣 | 同 十三人 | 埼玉縣 | 同 八人 |
| 群馬縣 | 同 五人 | 千葉縣 | 同 九人 |
| 茨城縣 | 同 八人 | 栃木縣 | 同 五人 |
| 奈良縣 | 同 四人 | 三重縣 | 同 七人 |
| 愛知縣 | 同 十一人 | 静岡縣 | 同 八人 |
| 山梨縣 | 同 三人 | 滋賀縣 | 同 五人 |

| | | | | | |
|------|---|----|-----|---|----|
| 岐阜縣 | 同 | 七人 | 長野縣 | 同 | 八人 |
| 宮城縣 | 同 | 五人 | 福島縣 | 同 | 七人 |
| 巖手縣 | 同 | 五人 | 青森縣 | 同 | 四人 |
| 山形縣 | 同 | 六人 | 秋田縣 | 同 | 五人 |
| 福井縣 | 同 | 四人 | 石川縣 | 同 | 六人 |
| 富山縣 | 同 | 五人 | 鳥取縣 | 同 | 三人 |
| 島根縣 | 同 | 六人 | 岡山縣 | 同 | 八人 |
| 廣島縣 | 同 | 十人 | 山口縣 | 同 | 七人 |
| 和歌山縣 | 同 | 五人 | 德島縣 | 同 | 五人 |
| 香川縣 | 同 | 五人 | 愛媛縣 | 同 | 七人 |

| | | | | | |
|------|---|----|-----|---|----|
| 高知縣 | 同 | 四人 | 福岡縣 | 同 | 九人 |
| 大分縣 | 同 | 六人 | 佐賀縣 | 同 | 四人 |
| 熊本縣 | 同 | 八人 | 宮崎縣 | 同 | 三人 |
| 鹿兒島縣 | 同 | 七人 | | | |

朕大日本帝國憲法ノ明文ニ依リ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ貴族院令ヲ發布ス
此ノ勅令ヲ實施スルノ時期ハ朕カ更ニ命スル所ニ依ルヘシ

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

内閣總理大臣 伯爵黒田清隆
樞密院議長 伯爵伊藤博文
外務大臣 伯爵大隈重信
海軍大臣 伯爵西郷從道
農商務大臣 伯爵井上馨
司法大臣 伯爵山田顯義

大藏大臣兼内務大臣 伯爵松方正義

陸軍大臣 伯爵大山巖

文部大臣 子爵森有禮

逓信大臣 子爵榎本武揚

勅令第十一号

貴族院令

第一條 貴族院ハ左ノ議員ヲ以テ組織ス

一 皇族

二 公侯爵

三 伯子男爵各々其ノ同爵中ヨリ選舉セラレタル者

四 國家ニ勲勞アリ又ハ學識アル者ヨリ特ニ勅任セラレタル者

五 各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ノ中ヨリ一人ヲ互選シテ勅任セラレタル者

第二條 皇族ノ男子成年ニ達シタルトキハ議席ニ列ス

第三條 公侯爵ヲ有スル者滿二十五歳ニ達シタルトキハ議員タルヘシ

第四條 伯子男爵ヲ有スル者ニシテ滿二十五歳ニ達シ各々其ノ同爵ノ選

ニ當リタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項議員ノ數ハ伯子男爵各々總數ノ五分ノ一ヲ超過スヘカラス

第五條 國家ニ勲勞アリ又ハ學識アル滿三十歳以上ノ男子ニシテ勅任セ

ラレタル者ハ終身議員タルヘシ

第六條 各府縣ニ於テ滿三十歳以上ノ男子ニシテ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者十五人ノ中ヨリ一人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ勅任セラレタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 國家ニ勲勞アリ又ハ學識アル者及各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ヨリ勅任セラレタル議員ハ有爵議員ノ數ニ超過スルコトヲ得ス

第八條 貴族院ハ天皇ノ諮詢ニ應ヘ華族ノ特權ニ關ル條規ヲ議決ス

第九條 貴族院ハ其ノ議員ノ資格及選舉ニ關ル爭訟ヲ判決ス其ノ判決ニ

關ル規則ハ貴族院ニ於テ之ヲ 定シ上奏シテ裁可ヲ請フヘシ

第十條 議員ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ勅命ヲ以テ之ヲ除名スヘシ

貴族院ニ於テ懲罰ニ由リ除名スヘキ者ハ議長ヨリ上奏シテ勅裁ヲ請フヘシ

除名セラレタル議員ハ更ニ勅許アルニ非サレハ再ヒ議員トナルコトヲ得ス

第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ七箇年ノ任期ヲ以テ勅任セララルヘシ被選議員ニシテ議長又ハ副議長ノ任命ヲ受ケタルトキハ議員ノ任期間其ノ職ニ就クヘシ

第十二條 此ノ勅令ニ定ムルモノ、外ハ總テ議院法ノ條規ニ依ル
第十三條 將來此ノ勅令ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スルトキハ貴族院ノ議
決ヲ經ヘシ

版權登錄

明治廿二年二月十五日印刷

明治廿二年二月十六日出版

定價二十錢

愛知縣名古屋區玉屋町三丁目二番戶

發行者 片野東四郎

全縣全區南伏見町二百七十六番戶寄留

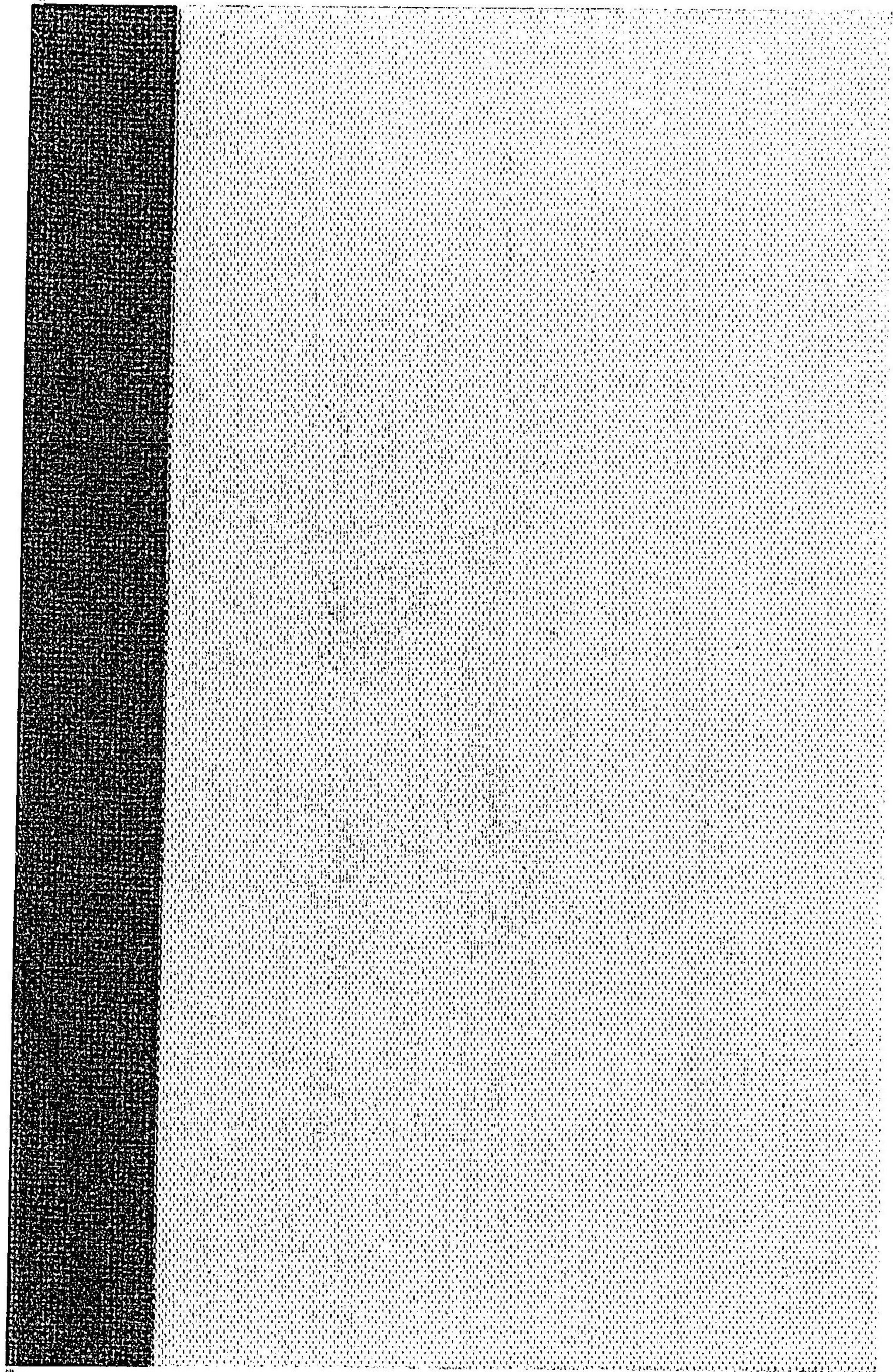
編纂者 杉本勝二郎

版權
所有

全縣全區傳馬町七十番戶

印刷者 田中有文





CZ
212
026

英欽 帝國憲法

附 關係法律書

国立国会図書館



031733-000-9

CZ-212-026

帝國憲法 (英独参照)

杉本 勝二郎 / 編

M22

BBE-0360

